

日 時：平成28年3月23日（水）13:30～16:00

場 所：朝倉総合事業所 1F 大会議室

第4回小石原川ダム環境保全対策検討委員会

議事次第

1. 開 会

2. 事業者挨拶

3. 委員長挨拶

4. 議 事

- 1) 事業の進捗状況
- 2) 前回委員会の審議結果
- 3) 保全対策等の取組み
- 4) 専門部会の報告

5. 閉会挨拶

(配付資料)

- ・資料－1 第4回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 出席者名簿
- ・資料－2 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 設立趣意
- ・資料－3 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 規約
- ・資料－4 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 委員名簿
- ・資料－5 小石原川ダム環境保全対策検討委員会の公開方法について
- ・資料－6 第3回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 議事要旨
- ・資料－7 第4回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 説明資料

第4回 小石原川ダム環境保全対策検討委員会

出席者名簿

【委員】

	荒井 秋晴	九州歯科大学 特任教授
	飯田 大和	朝倉生物研究会 会長
	小野 仁	日本野鳥の会 福岡支部長
◎	古賀 憲一	佐賀大学 名誉教授
	広渡 俊哉	九州大学大学院農学研究院 教授
	松井 誠一	元九州大学 教授
	真鍋 徹	北九州市立自然史・歴史博物館
	山根 明弘	北九州市立自然史・歴史博物館

(敬称略。五十音順。◎委員長。)

【事務局（水資源機構）】

(筑後川局)

	船橋 昇治	次長(技術)
	中原 忠義	企画調整課長

(朝倉総合事業所)

	日野 浩二	所長
	一ノ瀬 泰彦	第二調査設計課長
	田中 英晶	工事課長
	芦田 哲郎	調整課長
	橋本 尚樹	機械課長
	中野 春男	環境課長

資料－２

「小石原川ダム環境保全対策検討委員会」設立趣意

小石原川ダム建設事業は、筑後川総合開発の一環として、筑後川水系小石原川に多目的ダムを建設するとともに、筑後川水系佐田川から小石原川にある江川ダム貯水池までの導水施設を建設するものである。ダム建設にあたっては、環境影響評価法に基づく環境影響評価の手続きを平成16年3月に終え、事業の環境への影響を評価し、必要な環境保全措置を定めたところである。

平成20年3月23日に損失補償基準を調印し、今後、事業用地の取得、ダムの仮設備工事、付替道路工事に着手していくことから、次の段階として取り組むべき主要な課題は、環境保全措置の具体化、貯水池の出現に伴う周辺環境の変化の的確な把握及び対策を講じた保全対策の効果の検証にある。

このことから、小石原川ダム建設事業における環境保全対策やモニタリングの実施に関して、総合的な観点から指導・助言を得るために「小石原川ダム環境保全対策検討委員会」を設置する。

小石原川ダム環境保全対策検討委員会 規約

(名 称)

第1条 本会は、「小石原川ダム環境保全対策検討委員会」（以下、「委員会」という。）と称する。

(目 的)

第2条 委員会は、小石原川ダム建設事業における環境保全対策やモニタリングの実施に関して、総合的な観点から指導・助言を行うことを目的とする。

(設 置)

第3条 委員会は、独立行政法人水資源機構朝倉総合事業所長（以下、「所長」という。）が設置する。

(委員会)

第4条 委員会の委員は、所長が委嘱する。

- 2 委員会には会務を総括する委員長を置く。
- 3 委員会は、委員長が召集及び開催し、運営する。
- 4 委員会は、委員の2分の1以上が出席しなければ開催することができない。
- 5 委員会には、特定の課題を検討する専門部会を設置することが出来る。
- 6 委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者の委員会への出席を求めることが出来る。

(委員長)

第5条 委員会には委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は会務を総括し、委員を代表する。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(専門部会)

第6条 専門部会（以下、「部会」という。）委員は、委員会委員のほか、委員会以外の専門家を部会委員とすることができる。

- 2 部会には部会長を置き、その部会長は、委員会委員が務めるものとする。
- 3 部会での審議内容は、委員会に報告する。

(委員会の公開)

第7条 委員会の審議内容は公開を原則とする。

(事務局)

第8条 委員会の事務局は、独立行政法人水資源機構朝倉総合事業所内に置く。

2 事務局は、委員会もしくは部会の指示により事務を行う。

(雑 則)

第9条 この規約に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会で定める。

(附 則)

この規約は、平成20年7月16日から施行する。

この規約は、平成25年8月 2日から施行する。

資料－４

小石原川ダム環境保全対策検討委員会 委員名簿

氏名	所属	専門分野
あらい しゅうせい 荒井 秋晴	九州歯科大学 特任教授	哺乳類
いいた やまと 飯田 大和	朝倉生物研究会 会長	環境一般
おの ひとし 小野 仁	日本野鳥の会 福岡支部長	鳥類
こが けんいち 古賀 憲一	佐賀大学 名誉教授	水質
ひろわたり としや 広渡 俊哉	九州大学大学院農学研究院 教授	昆虫類
まつい せいいち 松井 誠一	元九州大学 教授	魚類
まなべ とおる 真鍋 徹	北九州市立自然史・歴史博物館	植物
やまね あきひろ 山根 明弘	北九州市立自然史・歴史博物館	両生・爬虫類

(敬称略。五十音順)

資料－５

小石原川ダム環境保全対策検討委員会の公開方法について

- 委員会は、原則マスコミ公開とする。なお、委員会が必要と認めた場合、野生動植物保護の観点から、これに関わる事項について、非公開とすることができる。
- ビデオ収録、録音及び写真撮影は、冒頭の委員長の挨拶までとする。
- 委員会での審議内容（議事要旨）及び配付資料については、ホームページ上に公表する。

第3回 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 議事要旨

日 時：平成27年3月11日（水）13：30～16：00

場 所：水資源機構 朝倉総合事業所 1F 大会議室

出席者：（委員）古賀委員長、荒井委員、飯田委員、小野委員、松井委員、真鍋委員、
森本委員、山根委員
（事務局）12名

資 料：

議事次第

資料－1 第3回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 出席者名簿

資料－2 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 設立趣意

資料－3 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 規約

資料－4 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 委員名簿

資料－5 小石原川ダム環境保全対策検討委員会の公開方法について

資料－6 第2回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 議事要旨

資料－7 第3回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 説明資料

審議内容等：

1. 事業の進捗状況について

小石原川ダム建設事業の流れ、工事進捗状況と平成27年度工事予定、事業全体の予定工程について、事務局より説明され、委員会として内容を確認した。

2. 前回委員会の審議結果について

前回委員会の意見等について、事務局より説明され、委員会として内容を確認した。

3. 保全対策等の取組みについて

生息環境等の整備、植物の重要な種、動物の重要な種、その他について、事務局より説明され、内容を審議した。審議の結果は次のとおり。

- ・生息環境等の整備については、資料に示された今後の対応のほか、生態系にも考慮しつつ、各委員と個別に相談しながら検討を進めた方が良い。
- ・フクロウについては、樹洞がある大きな木があれば街中でも繁殖する事例があることから、その要素も一緒に考えた方が良い。
- ・ミヤマチャバネセセリについては、昔に比べ個体数が減少しているが減少要因が解明されていないため、ススキ等の草地の復元・整備をする際はダム要因以外の本来の減少要因が潜在的に存在している点について留意しておいた方が良い。
- ・オオムラサキについては、幼虫の食草となるエノキの植栽だけでなく、成虫の餌になるクヌギ等も一緒に植えると本種の保全がより効果的となるため、可能な範囲で配慮した方が良い。
- ・湿地環境の整備については、他事例の情報を参考にしながら、具体的な整備内容や維持管理のことも念頭に置きながら、引き続き、検討を進めた方が良い。
- ・植物の重要な種については、資料に示された今後の対応に沿って進めていくことで良い。
- ・コキクガシラコウモリの代替横坑については、整備後のことも念頭におき、資料に示された対応のとおり、早期整備完了を目指して進めた方が良い。
- ・新たな重要種であるカジカガエルについては、流水域を産卵場としており、河川を

切り換える時期が産卵期、および幼生期と重ならないよう配慮した方が良い。

4. 専門部会の報告について

委員会に報告することとなっている専門部会の審議内容として、クマタカ検討部会の進め方、5つがいの繁殖状況、クマタカ検討部会での主な審議内容について、事務局並びに部会長より報告され、委員会として内容を確認した。

以 上